

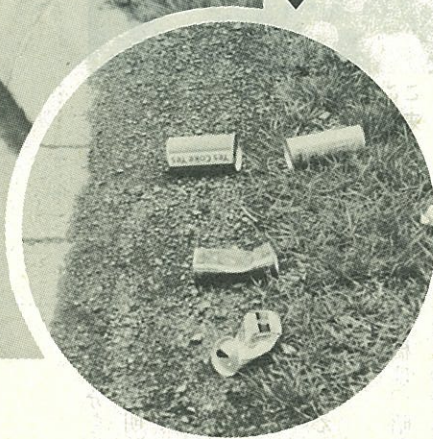
マチを美しくするのは あなたです

皆さんの囲りに空カンや紙くずは落ちていませんか。皆さんの掃除をする範囲を一步拡げて、皆さんが毎日通る道路も、子供たちが遊ぶ公園も皆さんの庭と同じように大切にしてください。



心ない町民が捨てたゴミの山!!

道路には空カンが▼



みんなでマチを美しくしよう

今月の主なニュース

- ・ふるさとの歴史散歩……………二・三ページ
- ・道宮新川地区畑総事業がスタート……………四ページ
- ・農業の取り扱いに注意……………五ページ
- ・特集新総合振興計画……………六・八ページ
- ・町づくり見学会に参加を……………九ページ
- ・ふるさと館ニュース……………十ページ

まぐべつ

昭和
'81(56年)

353

●発行・幕別町役場 幕別町本町130番地 ☎(01555) 4-2111
●編集・町民課広報広聴係 ☎内線111 ●印刷・ソーゴ印刷

6

ふるさととの歴史散歩

ふるさと館主催・三十五人が参加

ふるさと館主催の第一回「ふるさととの歴史散歩」が、小学生四人を含む三十五人が参加して五月二十四日に行われ、「栗山橋」など七カ所を訪れました。それぞれの内容をお知

らせしますので、この日参加できなかった皆さんも「広報紙」片手に一度訪れてみてはいかがでしょうか。

畑の真中が昔は市街地だったたり

なんの変てつもない河原がその昔は盛んに人々が行き来した渡船場だったたり……。人々に忘れられた史跡や場所は少なくありません。

そこで「ふるさととの歴史を再発見し、先人をしのぼう」と企画されたのが「ふるさととの歴史散歩」です。

訪れたのは図にある七カ所。それぞれの歴史的内容をお知らせします。

「業進歩」を図る目的で札内川に私設橋梁架設を申請した。

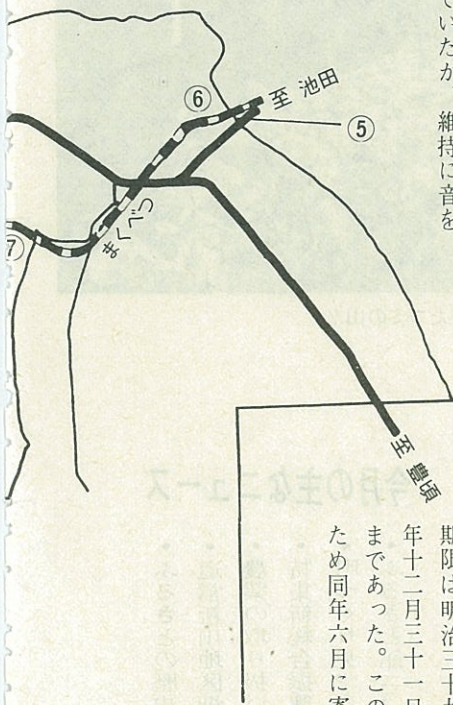
明治三十一年四月十五日に竣工栗山橋と命名されたが、同年九月六日「安政以来の大水害」といわれた水害で、あえなく流出してしまつた。

明治三十二年四月に再建。この橋は有料橋であつた。人は片道一銭、馬は二銭の渡橋料金を取つていた。洪水のたびに改修を続けていたが、維持に音を



ここに橋があり、多くの人が行き来した

あけていた。許可期限は明治三十九年十二月三十一日までであつた。このため同年六月に寄



2 徳原地

付を目的に破損部分を改修して、期限とともに寄付、明治四十年四月二十日付で寄付採納になり、官設栗山橋にかわり、渡橋料を取らなくなった。

栗山橋は、大正十一年五月二十五日に新橋にかけかえられ、札内橋にかわつた。

現在の札内橋は、昭和三十二年にかけられたものである。

「徳原地」は、依田近隣センター周辺をいう。その由来は、東百間西百五間、南二百四十五間、北二百二間、約十五町歩の土地を神社用地として依田勉三が生前中の遺志で残しておいたものを、昭和七年の自作農創立時の小作人に無償で提供されたことからきてい

3 黒田温泉



途別水田の碑

黒田温泉は、あかしや団地を通りぬけ、吐月橋を坂道に向つて渡ると左手の川沿いの大きな松の木

る。

「徳原地」の碑と並んで建てられているのが「途別水田の碑」である。

幕別町で水田が初めて作られたのは、明治三十三年、依田勉三が途別農場で七反歩の水田を試作したのが初めである。このとき、反当り一・五俵から四俵の収穫があつた。その後、小作人のつごうで三年で中止した。

明治四十二年に再度水田開発を行い成功。大正六年に入植者が増加し、六坪の草葺の小作人小屋十数戸を、現在の札内文京町に建てる。この小屋は「きまり小屋」と呼ばれた。大正九年に途別水田の豊作を祝つて、依田佐二平（勉三の兄）が伊豆から石碑を送つた。これが「途別水田の碑」である。

の所にあった、温泉宿のことである。

黒田温泉は、大正元年に黒田林平が始めた温泉で、湯の温度が二〇度と低いため沸かして使用していた。

黒田温泉は「旅の歌人」若山牧水が訪れたことで有名である。牧水は四十二歳（大正十五年）のとき喜志子夫人を伴って五日間滞在している。それを記念して昭和十二年に歌碑が黒田温泉跡に建設された。その後、昭和四十八年に現在のところに移転された。

黒田温泉は牧水が訪れた後、廃業している。



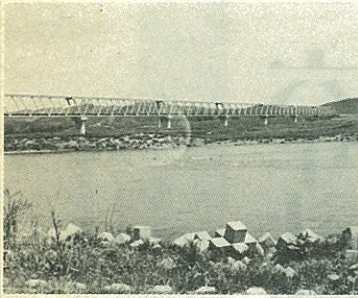
牧水の歌碑

4 ふるさと館

おなじみの「幕別町ふるさと館」である。

昭和五十四年十月七日、町の歴史資料を保存、展示する施設としてオープン。館内のジャンボ水槽で飼っていたサケが産卵したのは有名。

動く歴史資料館を目指し活動し



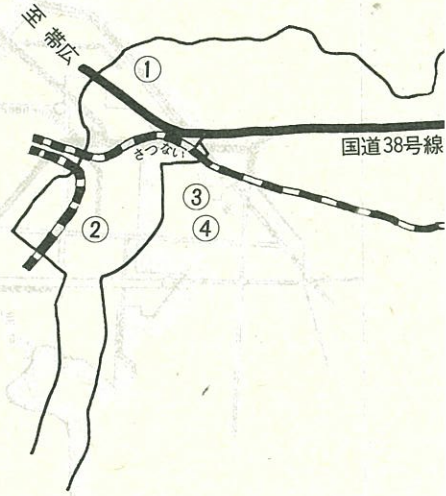
昔渡船場があり、多くの人々が大津から入ってきた。

5 川舟

ている。

幕別町に道路がなかった頃、人々は川舟を唯一の交通機関として利用、アイヌの人々があやつる丸木舟で十勝川を、また猿別川を下した。その渡船場が十勝川にかかる国鉄根室本線鉄橋のシモにあった。

明治三十五年、三十石積の舟が猿別川にも入った。運賃は米一俵と味噌十二貫、蕤吹二十枚六貫包が同額で、大津から武山市街まで十六銭、猿別まで二十銭だった。人は、武山市街まで四十五銭、下りは運賃の取り決めはなく「適宜」



となっていた。

明治三十九年、幕別には五十石積以下の舟が六隻、丸木舟五十八隻の計六十四隻の舟があった。武山市街は幕別一のにぎわいを呈した。

呈した。

6 武山市街

水路の中継地として栄えたのが武山市街である。

明治二十三年、宮城県人、武山土平が若村に移住、開拓に従事した。その後、明治三十一年に記録の大洪水があり白人村・唖別村は大きな被害を受けた。入植者は難を避けて他に土地を求め移ろうとしたとき、武山土平氏が羅災者に一戸分宛を区画して無償譲渡した。羅災者は喜び、五十戸の家屋が建築され市街地が形成された。武山氏の名を取り武山市街と称された。

武山市街には、食品雑貨店、呉服店、酒店、鍛冶屋のほか、小学校、神社などがあつた。



ここが昔は武山市街の本通りであった。

武山市街も道路網が整備されるにつれて川舟を利用する者が減少し、しだいにさびれていった。このため、陸路の中継地であつた猿別市街が栄えていった。

7 金刀比羅神社

金刀比羅神社は、明治二十六年北海道移民の開拓安全の守護神として、香川県琴平山の金刀比羅宮から神霊を分祀され、香川県北海に移住民奨励会」の移住民監督・福家縮吉が奉持して出発した。

同年九月、陸路奉迎、猿別山麓に草屋を建て仮に奉祀した。以来猿別山は金刀比羅山と呼ばれている。

明治三十一年に七坪の拝殿を山頂に新築した。大正五年五月四日、内務大臣から無格社として認可。大正十二年四月四日に村社になっている。



山頂からはヤジリが出る。

なお、金刀比羅神社奥殿のあるところは、アイヌ酋長の居城（チヤシ）で同族の見張所ともいわれている。このチヤシからは遠く大津・音更・芽室方面も眺めることができ、この付近からは古刀・石器類が多数発見されている。

十勝俳句村がオープン

五月十七日・依田公園に――俳人たちの憩いの場にしようとして「十勝俳句村」が依田公園（幕別温泉周辺）にオープンしました。

これは、五年前、榎本梅谷さん（幸町）を中心とする俳句の仲間が「我々の句碑を一カ所に建立し俳人たちの集まる場所があつたら」とのこと。俳句村建設を計画。依田公園の一角を使用する許可を得て開村のはこびとなったものです。

この俳句村には、村長、助役、収入役、議長、名誉村民などのほか村是も定められているといったユニークさで、初代村長には榎本さんが選ばれました。

開村式には十勝管内から六十人の俳人が参加して行われました。



昭和56年度予算から

道営新川地区畑総事業がスタート

六年計画で総事業費は三十億円

新総合振興計画の目標である「総合的な福祉社会の建設」を目指し、町内各地で道路の整備、集会施設・学校施設の建設が始まりました。今年予定されている主な事業の内容を

今月からシリーズでお知らせします。今月は新川地区で着手された「道営畑地帯総合土地改良事業」です。

新川地区の道営畑地帯総合土地改良事業が今年からスタートします。畑地帯総合土地改良事業は通称

「畑総」と呼ばれている事業で、明・暗渠排水や客土、農道の整備を行い、農業の近代化と安定した畑作経営を促進するものです。

新川地区は十勝川に沿った平担な耕地ですが、そのほとんどが泥炭地で排水不良の過湿地です。このため、過去には水害が続き、その都度多くの被害が出ていました。

町では、昭和四十九年に国営新川地区直轄明渠排水事業(図参照)を導入して問題解決にあたってきました。同事業も昭和五十七には

糠内第二地区では

明渠排水事業を中心に

新川地区以外では、現在、三地区で「道営畑総事業」が行われています。

〔南勢地区〕

南勢地区畑総事業は、昭和四十九年に着手され、七年目を迎えました。今年度は、農道(一条・千鈔)が整備されます。

〔糠内地区〕

糠内地区畑総事業は、昭和五十二年に着手され六十一年を目標に九カ年計画で整備が進められています。今年度は、農道(一条・七百鈔)、暗渠排水(四十五鈔)の

完了するため、引き続き行われる「道営新川地区畑総事業」によって、より細かな土地基盤整備が行われるものと期待されます。

「道営新川地区畑総事業」は、昭和六十二年度完了を目標とした六カ年計画で、①明渠排水路(七条・二万五千二百四鈔) ②客土事業(二百七十八・四鈔) ③暗渠排水(七百十八・六鈔) ④農道事業(七条一万四千二百三十七鈔)を整備します。

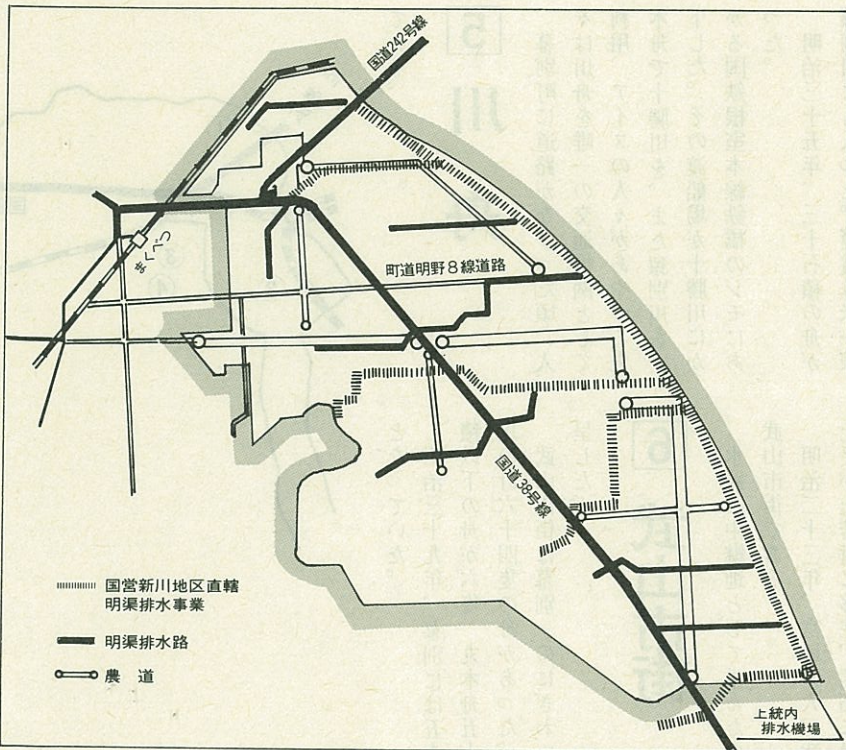
総事業費は三十億円が見込まれます。第一年度の今年度は調査・測量と暗渠排水・九十五鈔が行われます。

整備と農用地の区画整理が行われます。

〔糠内第二地区〕

糠内第二地区畑総事業は、昭和五十三年に着手され六十年を目標に七年計画で整備が進められています。今年度は、明渠排水(四条・延長三千三百鈔) 暗渠排水(五十鈔)が整備されます。

各地区では安定した畑作経営の確立のため「畑総事業」の早期完了に大きな期待がよせられています。



農薬の取り扱いに注意

河川からの直接取水はやめよう

各作物のは種作業も終り、これからは病虫害の防除作業である農薬の散布が始まります。病虫害の防除作業は秋の収穫をも左右する大切な作業ですが、防除に使われる農薬は全てが毒物、劇物でありその取り扱いや散布の方法を誤ると、作物に被害を与えるばかりでなく、人や家畜、魚などにも危害を与えることとなります。

病虫害防除のための農薬散布の際に、二種類以上の農薬を混用して使用することが多いようです。このことは、実際に病虫害防除をするとき散布回数を減らして労力を軽減することをねらっているものと思われまます。しかし、例えば有機リン剤間で混用すると単剤では低毒性であっても混用により毒性が十倍から二十倍になることもあるので、混用散布にあつてはとくに注意しましょう。

■農薬の混用に注意■

■農薬安全使用の心得■

●散布前

- (1) 農薬の使用上、必要事項を良く読むこと。
- (2) 使用する農機具の点検を十分に行う。
- (3) 不健康な状態や極度に疲労している人は散布作業に従事しないこと。
- (4) 散布液の調整は、経験者が必ずゴム手袋やマスクをして行い、手や顔などの露出部分を少なくする。



(5) 農薬溶解水を河川などから直接取水することは絶対にしない。

●散布後

- (1) 作業が終った容器や機具はよく洗っておくこと。
- (2) 手、足はもちろん全身を石けんで洗うとともに、入浴して充分に体を休めましょう。
- (3) 散布後は畑に一定の期間入らないこと。
- (4) 散布中あるいは散布後、もし体に異常を感じたらすぐに医師の診察を受けるようにしましょう。

空ビン、空袋の保管を厳重にしよう!!

農薬は一時期にしか少量に使われるため、農薬の空ビン、空袋が野積に放置されている場合があります。空ビン、空袋にも農薬は付着しており大変危険です。子供たちの手のとどかない所へ保管するようにして

ださい。

また、町では、農薬の空ビン、空袋は安全に処理しようと、毎年各農家より空ビン、空袋の回収作業を行っています。空ビン、空袋

は安全に保管し、回収日にまとめて出すようにしてください。(今年の回収日程は決定しだい連絡いたします。)

健康カルテ

虫歯予防

その1

「健康カルテ」今月は「虫歯予防」です。六月四日は虫歯予防デー。国民の九割が持っているところから、現代の「国民病」といわれる虫歯の予防について考えてみたいと思います。

①歯の清掃

歯垢は水に溶けないので、歯ブラシでこすって取り除きます。食後、なるべく早く早くみがくことが大切です。特に夕食後は忘れずにみがきましょう。

②妊娠中にすること

(1) 生まれてくる子は虫歯なしで育てることを決心する。
(2) 乳歯、永久歯についての知識を持つようにする。
(3) 家族・親類・近所の方に甘いもののプレゼントを事前にこたわるようにする。

④バランスのよい食事をする。

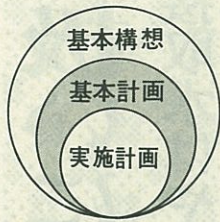
乳歯はもちろん、永久歯の一部もお母さんのおなかの中でできます。丈夫な歯づくりは妊娠中の栄養にかかっています。カルシウム・タンパク質・ビタミンなどバランスのとれた食事をしましょう。

(つづく)

健康カルテ

福祉社会の建設

特集・新総合振興計画③



新総合振興計画体系

幕別町の歩むべき基本方向を定めた「幕別町新総合振興計画」の策定経過や基本構想の内容について、四月号からシリーズでお知らせしてきました。最終回の今月号は、五月号に引き続き「基本計画」の内容をお知らせします。

私たちのマチ、幕別町の将来像はどうあるべきか……。町の歩むべき基本方向を定めた「幕別町新総合振興計画」がまとまり、四月号からシリーズでお知らせしてきました。このシリーズも今月号で最終回です。「基本計画」の内容に入るまえに、もう一度「新計画」全体についてふれてみたいと思います。

町では、昭和四十六年度に「第一次総合計画」を策定し、町づくりを進めてきましたが、同計画が昭和五十五年をもって終了することと、社会情勢の変化、町民要求の多様化などに対応するため「幕別町新総合振興計画」を策定したものです。

新計画の策定にあたっては、より多くの町民の皆さんの声を把握

しようとして「総合計画審議会」の設置や千五百人を対象とした「住民意向調査」の実施など二年間にわたり積極的に取り組んできました。

あたたかな心で包む町づくり

地域ぐるみの助け合いを基調とする「あたたかな思いやりの心」で、町民誰もが生きる喜びを十分に感じられるよう充実した福祉社会の確立と健康の増進を図ります。

■児童福祉

温かい家庭づくりを中心に児童の健全な育成体制の確立と良好な地域環境の整備を図る。

- ① 温かい家庭づくり
 - ・ 母と子の健康対策として、町民健康センターの機能拡充と乳幼児医療費の助成を推進する。
 - ・ 児童の健全育成を図るため、幼児期の健康診断の充実と育児指導演相談活動を充実する。児童公園児童館などの施設の充実を図る。
 - ・ 親子の交流、地域間の交流を促進するなど家庭環境の充実を図る。

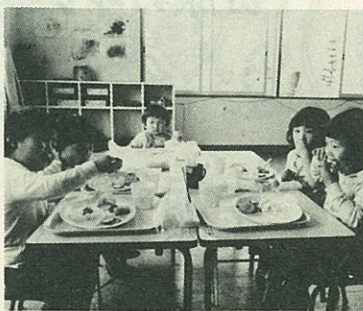
今後、あらゆる町づくりの施策が、この新計画にもとづき展開されることとなります。新計画は、基本構想・基本計画・実施計画の三部構成となっています。

「基本構想」は幕別町の将来像をもとに町づくりの目標を設定したもので、「基本計画」は基本構想にもとづき体系的に行政部門別の計画を策定したものです。

五月号に引き続き「基本計画」の内容をお知らせします。

る。

- ② 地域環境づくり
 - ・ 保育所の整備と適正配置を行い保育事業の充実を図る。



充実した保育を

- ・ 地域環境づくりを推進するため児童育成クラブの設立とリーダーの育成を図る。各公区にチビッコ広場、または児童公園を整備設置する。児童の事故防止活動、地域の奉仕活動など、各種活動に対

する研修体制の確立を図る。

■母子・父子福祉

母子の健康と安定した生活基盤を確保して自立の助長を図り、生きがいある地域社会へ実現と経済的、精神的な援助活動を強化する。

また、父子家庭についても子供の保育に重点をおいた施策を推進する。

(自立助長の援助の充実)

- ・ 就業の斡旋や各種福祉資金の充実と貸付限度額の拡大を図るなど経済的自立を促進する。
- ・ 父子家庭の実態調査と児童への精神的援助体制の確立を図る。
- ・ 健康・法律などの相談窓口を拡充する。

■老人福祉

老人の自主的活動と社会活動への参加を図り、楽しみと生きがいある生活環境づくりに努めるとともに、健康の維持、生活の援助など老人の福祉向上を図る。

- ① 定期検診制度の充実と健康教室の開催、老人スポーツの振興など健康づくりを進める。医療費の助成を行う。
- ・ 老人クラブや高齢者学級への加入促進と活動の強化を図る。
- ・ 老人福祉センターを建設する。
- ② 独居老人ねたきり老人対策
 - ・ 特別養護老人ホームへの援助拡大と質的充実を図る。
 - ・ ホームヘルパー活動や入浴サービスなど在宅サービスの強化を図る。

総合的な

・対象者及び家庭の相談窓口の充実を図る。

■低所得者福祉

低所得者の生活意欲の助長や、社会的自立を図るため、適切な援助と指導を行う。

■ウタリ住民福祉

アイヌ文化の伝承や保存につとめる中で、生活館の整備充実と地域生活環境の改善を図り、健康な家庭と生活の安定向上を期する。

■勤労者福祉

働くことの喜びと日常生活の充実を図る勤労者福祉施設の整備と安心して働ける社会環境の向上を図る。

（労働環境の向上）

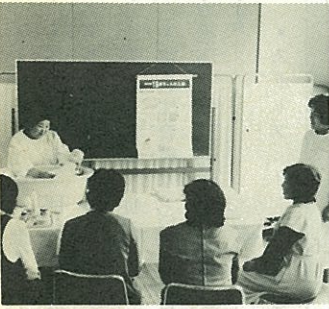
・勤労者福祉施設の整備、充実を図り、勤労者の労働意欲向上を促進する。

・勤労者持家制度の充実を図る
・雇用の促進を図るため企業誘致を促進する。

・労働情報、資料の提供を図り労働条件の向上を促進する。

■健康

健康管理を充分に行えるよう、



健康センターの活動を充実

医療施設の充実、保健指導の徹底衛生指導の普及等を図る。

①医療環境の整備

・へき地診療所など医療施設の充実を図る。成人病検診など各種検診の徹底を図る。

②保健体制の強化

・保健指導活動の充実を図る。
・保健衛生思想の啓蒙。
・スポーツ活動を通して住民の体力づくりを促進する。

教育の輪を広げよう

教育は、豊かな地域社会と幸せを築く基本となるもので、最も重要な課題である。そのため、長期的、総合的な視点に立つて、幼児教育、学校教育、社会教育、文化スポーツなど一貫性のある生涯教育体系を確立するとともに、情操豊かで、たくましい人材を育成し文化的な香りの高い町をつくる。

■幼児教育

人間形成の第一段階として、幼児教育の重要性を啓蒙するとともに、幼児の成長段階に応じた教育を推進する。幼稚園、保育所、家庭などの連携により、情操豊かで愛情のある人間に成長するような場の創造をめざす。

①幼児教育施設の整備

・幼稚園の整備と新設を行う。
・ちびっ子広場の設置を進める。

②成長段階に応じた幼児教育
・教育委員会、幼稚園、PTAなどの連携による幼児教育の研究促進。

・幼児を持つ母親の「母親学級」を開設し、家庭における幼児教育

のあり方を指導する。

■学校教育

長期的な視点に立った学校の適正配置を図るとともに、地域の期待にこたえる学校施設の充実を図る。知、徳、体の調和を図った創意ある教育を実践する。

①義務教育施設の整備

・地域の実態と、児童生徒数の長期見通しの上に立つて、小中学校の適正な配置を行う。
・老朽校舎の改築や教材、教具の充実を図る。

②調和のとれた教育の実践
・知、徳、体の調和がとれた教育課程を編成して推進する。

・クラブ活動の充実を図る。

③高等学校の内容充実
・町内における進学希望者の増加に対応するため、全日制普通科の間口増を図る。

■社会教育

生涯教育の観点にたった社会教育の位置づけとその推進を図る。住民の地域に関する学習活動や実践活動を促進する。社会教育施設

の整備と機能の充実を図る。住民の自主的、創造的な社会教育活動を促進するとともに、特に青少年健全育成に努める。

①社会教育機会の提供促進

・青少年、婦人、一般成人、高齢者などの社会参加に関する学習の場と機会の提供に努める。



社会参加と充実した活動を

・自主的、主体的な地域社会づくり活動の活発化を図る。

②社会教育施設の整備拡充

・公民館施設整備と機能の充実を図る。

・図書館の早期建設と図書活動の拡充を図る。

③社会教育活動の体系化
・青少年、婦人、高齢者教育の拡充に努める。

④地域子供会活動の育成と日常活動を促進する。

・郷土文化の振興をめざし、文化財の発掘と保護、文化団体の助長育成を図る。町民の体力向上と健康の増進、地域コミュニティの形成をめざし、地域スポーツ活動

・乳酸飲料の配付などを通して愛のひとし運動を推進する。

③生活の安定

・軽労働、軽作業など適切な職場への斡旋を行う。
・各種相談窓口の拡充を図る。

■心身障害者福祉

明るい社会生活が送れるよう、必要な援助と社会環境の整備を行うとともに、障害の発生予防、療育訓練などの促進を図る。

①予防と療育訓練の充実

・保健婦活動の充実を図り、性教育、衛生教育、予防療育の普及に努める。

・早期発見、早期治療体制の確保を図る。

②社会環境の整備

・就労の斡旋と社会復帰の促進を図る。

形成をめざし、地域スポーツ活動の浸透を図る。

① 郷土文化の育成と発展

・学校教育や社会教育を通じての文化活動の促進。

・図書館、資料館、ふゆさと館などを本町の文化施設として整備し、効果的に運営する。

② スポーツ活動の推進

・各種スポーツ団体の育成。
・運動公園、野外活動を中心とした施設の整備を促進する。

・総合体育館など屋内体育施設の充実、学校開放事業の充実を図る。
・スポーツ・リーダーの養成。

豊かさと活力のある町づくり

町の産業構造は、近代化された高生産性農業を中心として、農業と商工業の振興を互いに調和できる体制の確立をめざすものとする。

また、町の特性に適合する内水面漁業や林業、観光なども他産業との連携により、地場産業としての育成を図り、町民所得の向上に役立てる。

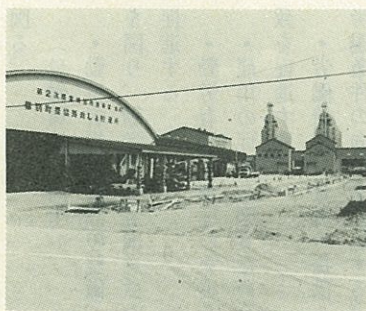
■ 農業の振興

恵まれた自然を生かし、豊かで安定した生活を営むことができる農村地域社会の建設を目標に、土地の有効利用と高生産農業の展開を図り、近代的、合理的な農業経営の確立を期する。

① 農業経営の確立

・すぐれた担い手の育成。
・生産額を一農家当り三千二百四十万円、一人当り一千万円以上を目標とする。

・生産性の高い寒地農業の確立。
・生産の組織化と施設などの共同利用、高性能機械の導入と共同作業体系の確立を図る。



農産物の集出荷施設

・ 共済制度の拡充

② 農業生産基盤の拡充強化
・農業用土地基盤の整備と高度利用の促進。

・札内川ダム、稲志別川ダムの早期具現化を図り、農業用水の安定確保を促進する。

・新農用地の開発促進。
・生産性の向上を図る土壌の改良促進。
・農業の効率化を促進させる農道の整備促進

③ 生産性の安定と拡大
・畑作では、麦類、馬鈴しょ、

てん菜、豆類、野菜の五作目を重点作物として振興を図る。

・畑作振興に必要な施設、機械の整備充実を図る。

・合理的輪作体系の確立と立地特性に合った地力の増強を図る。
・酪農では、酪農近代化計画の推進。

・省力技術の導入と改善の促進。
・町営牧場の効果的活用促進

④ 広域流通体制の整備
・生産物の品目別流通圏を設定し、流通施設の整備充実を図る。
・処理加工施設の充実。

⑤ 住みよい農村地域社会の建設
・農村総合整備計画を中心に生産基盤、生活環境施設を総合的に整備する。
・恵まれた大地と立地条件を活用した農業の発展を図り、地域環境の保全と相互の有機結合を促進させる。

■ 林業振興

森林のもつ公益的機能を十分に活用するため、森林資源の保全と拡充に努めるとともに、積極的な森林施業の推進を図る。

① 林業生産基盤の整備

・各種造林の促進。
・林道網を整備し、林業の機械化、高率化を図る。

② 林業経営の改善
・林業構造の改善を図る。
・森林組合の育成を図る。

■ 工業振興
自然と立地環境に調査する工業

用地の適正な配置、確保に努めて既存企業の育成と優良企業の誘致を促進する。

① 既存企業の育成

・既存企業の育成強化を進め、融資制度の拡充を図る。
・商工会の機能充実を図る。
・住宅地などに散在する軽工業を集約して団地化を促進する。

② 企業進出基盤の整備

新規企業の誘致をすすめるため工業団地の造成を行う。
・安定した労働力を確保、充実するため、事業団による各種厚生施設の充実を図る。

■ 商業振興

商店街の環境整備と商店の近代化を促進させるとともに、健全な経営の確立と活発な商業活動をすすめる施策を積極的に実施する。

① 商店街の環境整備

・街道型商店街から面的商店街への機能の整備。
・各種商業機能の充実と商業環境づくり。

② 商店の近代化

・共同化、協業化の育成。
・個性ある店舗と吸引力の演出

③ 経営の健全化

・商店の経営強化を図るため、各種診断、調査、アンケートを実施する。
・各種融資制度の充実。

■ 観光開発

自然観光ルートの開発と幕別温泉を中心とした大規模レクリエー

ション基地の建設を進め、憩いと保養を中心とした地場資源の観光活用を図る。

(観光の振興)

・広域レクリエーション施設の建設、依田公園、明野ヶ丘公園の整備充実と河川敷公園の建設促進
・サイクリング・コースの建設など観光コースの設定。
・基幹公園、幕別温泉など既存施設の整備充実。

交通安全立看板を設置

を

帯広空港開港によって市内市街を通る車が増えています。幕別ライオンズクラブ（杉野国男会長）では、交通安全を呼びかける立看板を作成、二カ所に設置しました。一人ひとりが安全運転に心がけ交通事故のないまちをつくりましょう。



「町づくり見学会」に

参加しませんか

町内のいろいろな施設や進められている事業ヶ所を見学していただき、町づくりを皆さんに、より深く理解していただくとうと「町づくり見学会」を開催いたします。

開催する日は、
 六月二十七日(土)定員六十名
 〃二十八日(日)定員六十名
 〃二十九日(月)定員四十名

六月三十日(火)定員四十名の四日間です。二十七日・二十八日は勤労者の方を、二十九・三十日は婦人を対象に考えています。参加料は無料、町のバスで囲みます。昼食は各自で用意してください。

申し込みは、六月一日発行の「おしらせ」に申し込み用紙がついて



は ち こん

十勝農業賞を受賞

美川・山田久一さん

山田久一さんが、すぐれた農業経営と地域での指導力が認められ「十勝農業賞」を受賞しました。

山田さんは、昭和十九年、現在地に入地して以来、着実に耕地を整備拡大し、畑作から酪農に転換。旺盛な研究心をもって地道に生産実績を伸ばしてきました。現在は、息子さん二人とともに五十鈴を耕作し乳牛百頭を飼育しています。

「今回の受賞は、家族全員で受賞したものと喜んでいきます。酪農を取りまく社会情勢は大変厳しいものがあります。じつと耐え、計画的生産を心がけねば……」と話す山田さんに、十勝一万三千農家の頂点に立った自信が感じられます。

常任委員会 構成決る

— 町議会 —

五月十二日に開かれた臨時町議会において、町議会の常任委員の選任が行われ次のとおり構成されることになりました。委員の任期は二年です。(敬称略)

- 総務常任委員会
 ▼委員長・稲毛空征 ▼副委員長 伏屋隆徳 ▼委員・佐藤糸江 西田利夫 廻渕茂 笹島登喜雄 黒島通
- 厚生常任委員会
 ▼委員長・小田善一 ▼副委員長 八十島宗正 ▼委員・加藤秀雄

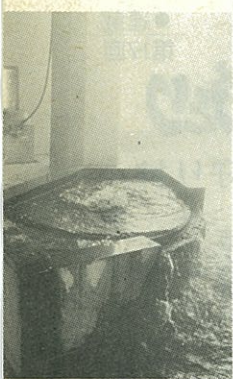
新泉源は

ナトリウム塩化物泉

— 幕別温泉ホテル —

国民宿舎・幕別温泉ホテルの第二泉源ボーリングに成功。四十五・二度という高温の湯が出たことは、すでにお知らせしましたが、この度、温泉の分析結果が道立衛生研究所から報告されました。

この分析結果によりますと、ナトリウム塩化物泉で、リウマチ性疾患、更年期障害、慢性消化器疾患によくききます。また、弱アルカリ性の微淡黄色澄明、無臭と良質泉であることもわかりました。幕別温泉ホテルでは、道の使用許可もおり使用を始めています。ご家族で温泉に入ってみてください。



寄付者のお名前

■町社会福祉協議へ……
 ▼松田衛さん(千住)から父が生前お世話になりましたと二万円

▼匿名の方から千円

■老人クラブへ……

▼佐々木シズエさん(旭町)から旭町老友会へ三万円 ▼谷地田敏男さん(明野)から明野・新川老人クラブへ一万円 ▼竹内正光さん(明野)から明野・新川老人クラブへ五千円 ▼前田信夫さん(栄)から古舞老人クラブへ一万五千円

逢坂さんが

百万円寄付

逢坂美代喜さん(錦町)から、夫(故逢坂又市さん)の香典返しをやめて町へ「体育施設の整備に役立てください」と百万円の寄付がありました。

また、故逢坂又市さんに勲六等単光旭日章が授与され、五月十二日十勝支庁長から伝達されました。





幕別町ふるさと館

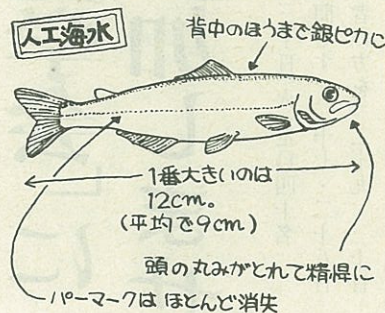
〒089-05 幕別町字依田384-3 ☎(01555)6-3117
AM9:30→PM6:00 毎週火曜日休館

サーモン通信⑧

5月26日、サケの淡水飼育は177日を迎えました。(昨年は176日で病死)

淡水と人工海水で比較飼育を続けていますが、明らかに人工海水のほうが成長が早いようです。淡水で育てているサケは体長が平均7cm、人工海水のほうは平均9cmになりました。日ごとにスマートにそして精悍な顔つきになってきました。

餌は冷凍のイサダアミとコナゴを与えています。人工海水の濃度は今、天然海水のちょうど半分くらい。少しずつ濃度を高めていき、6月初旬には天然海水とほぼ同じにする予定です。



ふるさと館を教室にこんなどは大学院

しらかば大学(六十五歳以上が入学資格)は四年で卒業ですが、おじいちゃん、おばあちゃんの学習意欲は留まることを知らず、ついに大学院ができました。講座は毎月一回、ふるさと館を教室にして一年間勉強がまた続きます。

「大学院というくらいだから研究らしきこともしなければ」と、幕別がまだ村だった頃のようにす思い出し、調べて記録していく大研究が始まります。

「大学院というくらいだから研究らしきこともしなければ」と、幕別がまだ村だった頃のようにす思い出し、調べて記録していく大研究が始まります。

「大学院というくらいだから研究らしきこともしなければ」と、幕別がまだ村だった頃のようにす思い出し、調べて記録していく大研究が始まります。

「大学院というくらいだから研究らしきこともしなければ」と、幕別がまだ村だった頃のようにす思い出し、調べて記録していく大研究が始まります。

しらかば大学



個展をやってみませんか

このコーナーはふだんは特別展示に使っていますが、広く一般にも開放したいと思えます。絵画や写真をはじめ、個人や団体の作品展示にご利用ください。使用は無料、展示ステージやケース、パネルはそろっています。ご相談はふるさと館へ。

幕別ものごと

連載 第17回

職人の守り神

昔、鍛冶屋の職人と大工の職人が町の中で出会いました。

「鍛冶屋が、大工さん、鍛冶屋と大工は、どっちが先にできたかね」と聞きますと、大工さんは「そりゃあ決まってる、大工が先さ」とすると、鍛冶屋さんは「なぜかね」とたずねると、「昔から大きな家をたてたり、船を作ったりするのは大工がいなければきんだろう」

「でもなあ、大工道具を作ったのは、ありやあ鍛冶屋だぞ」

「そんなことあらへん。ふいごを作ったのは大工だ」

「ただどな、ふいごを作る時だつて道具がなければ作れないで」

「なにを」

とうとう二人は長いけんかになって、それから寄るとさわると議論したという昔話があるそうです。

卵が先か、鶏が先かの話しに似ていますね。大工という意味を調べ

してみると、「昔、太宰府という役所にいた工人の長」とあります。

昔は建築ばかりでなく、いろいろな職人の長のことを大工と言っていたそうです。

さて、幕別の鍛冶屋の話しです。

明治三十七年、船釘を作る鍛冶屋の鈴木長太郎が富山県からやって来て、別奴村ポン札内(ポンは小さいという意味のアイヌ語、現在の旧国道の堤防付近)に開業しました。

長太郎が大工と議論したかどうかは定かではないが、富山県へ里帰りした時に職人の守り神として聖徳太子の石仏を持ち帰りました。

石仏は現在、永盛寺の北側にある小さな御堂に安置され、毎年五月二十二日に近隣の職人が集まって祭りが開かれています。

初代鈴木長太郎は、医者もいなければ薬もないこの山里に、ふるさとを思い、わが身を守ることを、職人たちの安全を願うての祈願仏だったのでしよう。

(岩田繁行・記)